

「鷹柱」より

沼田 布美「稻」

雁がねや暮れてせはしき僧の下駄

鷹柱天地引き寄す力かな

夕方になるとせはしく動く僧の姿。山門や墓地の見回り
かもしれない。「僧の下駄」と「雁がね」が呼応している。
二句目。私の住む富士宮にも、鷹の渡りの見える地域があ
る。秋の一日「明星山」という山に登って「鷹柱」を見る
べく遠い空を見つめて待った。が、とうとうその日は「鷹」
は渡ってこなかった。その山には、野鳥の会の面々が望遠
鏡を持ち根気よくチャンスを期していた。「鷹柱」には、「天
地引き寄す」の措辞が相応しい。